

期待と研究と

山村 きよ



1、心身共にすぐれた成長のようすを見せる こどもの姿から

進展する社会の影響か、家庭生活の変化からか？ 現代のこどもたちの身心共にすぐれて発達している姿は、現場で幼児と共に過ごす私どもには手にとるようにつつてくる。

身体的にも精神的にもいろいろの表われがのぞかれ、ことに男女の差なく体力的なあそびを好んだり、神経質で衝動的な行動が多く目立つ反面に、非常に理解力が増していたり、推理力、批判力など、おとなを「あっ」と言わせるようなことに基づく毎日の生活の中で、ときどき起る問題行動を追いかければ職員間の研究テーマにとりあげても、ほんとうに考えさせられることが多い。

一日の幼稚園生活を考えたとき、こどもの要求と私たちの教育計画をどのように織りませて具体的にすすめてゆくべきか？ 心理的な問題行動を追いかけてみたり、また、幼稚園教育の内容のけんとうをしてみたり、いろいろと考えてゆくと、ジレンマに陥ってしまう。

昨秋、ある会合で（幼・小・中の心理学を研究しておられる先生方の集り）話し合ったとき、痛切に考えさせられたことは、今の小・中学校生徒のもの考え方、非行のいろいろが、みんなそうした幼児の行動につながっていることにおどろいた。

ひとりひとりが知的にも感情的にもどんどん成長してゆくかげに、それと併行して起きている根本的な人間性の問題、家庭環境からおきているどうにもならないこどもの問題解決に、私達はどうし

て立ち向かっていったらいいだろう。

保育内容のけんとうは勿論のこと、そうした問題を今こそ私ども教育者の責任において解決し、家庭教育にまで手を差しのべてゆかねばならない大きな役割を痛切に感じるこの頃である。

毎日の幼稚園生活を充実させ、ひとりひとりにある程度円満な人間性と、自律的な生活力をもたせるような方向づけを家庭生活の中におしすすめてゆくことこそ、私共の責任だと思う。

おとな達の目には表面的にどんなにすぐれて見えるこどもの言動も、四歳児は四歳児なりに、五歳児は五歳児なりに、こども同志で思いきり遊び、充実したあそびの生活が営まれてゆかねば、満ち足りた感じで毎日を通すことはできないと思う。

しかもそうしたことが自然と豊かな人間性を造り出してゆくものだと、ということを具体的に示してやらねばならないと思う。しかも、幼稚園や、また家庭での生活をひとりひとりりが充実させてゆくということは、高度な生活経験をおしつけられたり、まして文字や数にとらわれているような知的生活でないことを今こそ世の多くの母親や、まちがった考えをもつ幼稚園の先生がたにつげたいものである。

こどもたちは「こども本来の遊び」を充分楽しみたいのだということをもう一度考えたい。

2、幼稚園教育要領改訂にのぞむこと

教育要領改訂のために多くの先生がたがたびたび文部省に集って熱心に研究され、文部省では全国的に幼稚園教育の内容実態調査を始められたとか？ 誠に誠にくれしいことである。しかし、ちよつと心配なことは、そのために選ばれた幼稚園があまりは、きき、つて、高度な幼稚園生活の記録を出されるのではないだろうか？ と。

さきに教育要領が出されたとき、現場ではあまりに六領域のきれぎれな研究が盛んになって、昔の小学校の学習を想わせるようなこともあつて悲しんだ者だけに、今後改訂される内容には多くの期待をかけている。

先年小学校の教育課程が改訂されて音楽や体育など、その指導内容の中が広くなり、幼稚園でも扱ってゆかれるような感じをもつていられる先生がたもあるようだ。また小学校の先生がたの中にも幼稚園でこんな場面を指導してもらえばだんだんと高学年の学習に入るだろうと、まちがった考えのかたもあるようだ。

今後改訂される教育要領にははつきりと「幼稚園独自の立場」幼稚園でなきねばならない指導内容」の指示を打ち出していたきたい。もちろん細い方法はそれぞれの幼稚園で工夫、考案せねばなら

ないとしても、目標に対するある程度水準（？）らしいものをはつきり打ち出して、できればその指導過程の方向づけぐらいは具体的に示していただきたい。

幸い、昨夏、世界公教育者会議に日本代表として出席された文部省初等教育課長補佐の奥田氏は、就学前教育部会に参加されてその答申中に「幼稚園教育は家庭教育の延長と、こどもの自由遊びを中心にして考えられるべきである」ということがうたわれて、あつたと報告をうかがい、教育要領改訂前にそのような場に列席された奥田氏がおられることできつと新教育要領に新風を入れていただけるのではないかと楽しみにしている。

3、混合組に対する疑問のいろいろ

全国的に見て今ほど幼稚園の形態にいろいろのようすを表わしていることはないと思う。内容はもちろんのこと、組編成などにもいろいろな内容の混合が見られるのではないだろうか？

年令差によるもの、保育年限の差によるものなど、甚しい場合は年令差のある中にまた保育年限の中も広く重っている複雑なクラス編成で、しかも、人の担任教諭によって受け持たれていることなど……よほどのヘテランか、神業でなければでき得ない芸当だと思

う。いずれにせよ、最近ばかりキュラムの研究も盛んに行なわれているので、昔のように低年令のこどもがいつも放任されていることはないと思うし、また、最初から混合の効果をはつきりと意識して、正しく計画的に指導がなされている場合は別として、多くの場合、ひとりひとりに教育的配慮がどのようにされているだろうか？

心理的にも、行動的にも相当巾をもっていることもたちが一室に入れられ、しかも教師の計画だけに（一律に）ひきまわされているとしたらほんとうに心配なことだ。

そうして考えてゆくと次のようないろいろな疑問がわいてくる。

○混合によっておきるまさつをふせぐような広い保育室や、遊び場が用意されているだろうか？

○各児がそれぞれの自発活動を満足するような遊びの材料が豊富に用意されているだろうか？

○年令差をもつ多人数のこどもの実態がひとりひとり先生に把握されていて、それぞれに教育的考慮がはらわれているだろうか？

○保育年限の差をどのような指導計画でカバーしているだろうか。一部分のこどもは背のびをしつづけていたり、また最年長児の古参組はどうしているだろう。あくびをする位はいいとして、先生から逃避して、あそぶ興味を味ってはいないだろうか？ などなど。

4、現場の研究のあり方について

最近現場の先生がたの研究熱はたいしたものだと思う。各団体所属の講習会や研究会はもちろん、他の組織で催される講習会にもそれぞれ自費を使って一生懸命勉強の機会をつかんでおられる先生がたもかなり多いようで頭が下る。

しかし、ある年令層(?)の先生がたの中には非常にのんびりかまえておられるのか、または一種のあきらめ(?)また中には事実忙しくて参加したくてもでき得ない先生がたがかなり大勢おられるのではないだろうか?

また継続研究会に根よく続けて出席することのむずかしさを痛切に感じている。毎年、年度初めに皆の総意で決定した研究会に、だんだんと人数が少なくなり自然消滅というのはどういうわけだろう?

月例研究会にいつも同じ顔のメンバーを揃えることはほんとうに困難なことだ。しかし問題によっては一、二回の研究で解決らしいものを得て安心する場合もあるが、今の幼稚園界に起きている実際指導の諸問題の中には二回や、三回では問題の原因をつかむだけで終ってしまう場合が多い。まして、一度みんなで見つかり得た問題を、それぞれ資料をもちよって話し合う時間のほしいとき、前回の

欠席者のために毎回会の初めに前回のくりかえしをせねばわからぬような無駄なことはしたくないと……思う気持ちが大んだんと熱をさましてしまうのではないだろうか?

一般的には、研究といってもまだ「人の話をききたい」「何かをきいて帰ってまねしたい」という気分が幼稚園界に残っているのではないだろうか?講習会にはわんざわんざとおしにかけても、研究会では……まして小人数の継続研究会では何かの抵抗を感じるのかしら?こんな現象をどうしていいかといえることができるだろうか?

しかし、幸いと私共の研究会(都・幼・教・研)は二、三のグループが案外ながつづきしている。ちょっとのぞいてみると必ずリーダー格の誰かが上手に話をはずませたり、時に宿題をもちよって自然と研究のおもしろみを増してゆくようだ(現在までつづいているのは言語、社会性、評価の問題など)。

また、東京都放送教育研究会幼児部会もその一つで、これは小人数であるけれど、公私立幼稚園、保育園の三団体の研究会が団体ごと組織に加わって年度会費を本部におさめているけれど、参加は自由で実に仲よく、楽しく三年間も継続している。さきやかではあるけれど、毎年一回研究のまとめもできて、まじめに一歩一歩つみ重ねて行こうとみんなが努力し合っている。現在までにまとめ得たもの

は、幼児の反応調査記録用紙作成、その実態調査のまとめ、年令別指導の手がかりなど、こどもと一しょにラジオをききながら、テレビを見ながら気らしく記入した資料を出し合って、自由に発言し合いたい会合だ。

前にのべたような研究会に参加でき得ない理由の大きな原因は幼稚園の仕事の「はんぎつさ」にあると思う。園児が午後二時に帰宅してからあとの時間をどんなに有効に使うべきか？ これこそみんなで反省し合って、新しい年の計画をたてるべきではなからうか？と同時にそうした仕事の処理の仕方を能率的に運ぶ方法をも考え出したいものだ。

5、幼稚園の補食給食（ミルク）について

こどものよろこぶおべんとうが、ただ、こどもの空腹を満たすだけでなく、多方面の教育効果をあげていることは幼稚園の先生がたが一ばんよく知っていることで、早くから完全給食にふみきっておられる幼稚園もたくさんあると思うが、しかし義務教育でない幼稚園にはいろいろの困難さがある、こどもにも保護者に要望されているところの小学校と同じような完全給食にはとうてい及ぶべくもない。

そこで全国国公立幼稚園長会では、過去八年間も運動しつづけて、ようやく昭和三十六年三月三十一日附で文部省から「幼稚園の給食実施について」と各都道府県教委宛に嬉しい通達があったわけだが、……その「給食」の内容が各都道府県教委にはどのようなうけとめられていたのか？ 実施までにはいろいろと問題もあった。

法律改正（関税暫定措置法の一部）までされて、公私立幼稚園児に22g一六四銭で栄養価の高い粉乳が安価に入手できるように用意されたわけだが……折角用意された二五〇〇トンを来年度までに利用できるだろうか？ 私も運動に加わったひとりとしてほんとうに心配な事だ。いろいろの問題があるならば一日も早くそうした問題解決にあたって多くの幼児たちに恩恵を与えてやりたいものである。

実施にあたって一ばんひっかかりの多かった各都道府県教育委員会のうごきからのべてみると、

○徳島県他二、三の県は六月一日からの実施に間に合うよう早くから県内の幼稚園長を集めて対策をねり、粉ミルクの配給が間に合わぬ場合は小学校のものを一時借用して始めるようにと積極的に指示があったので六月一日から実施したようである。

○ある県教委は通達をうけるとすぐに園長会、教委、一流メーカー（乳製品）と一体となり一学期間を研究して二学期からは五、六円で各幼児に飲用させ得たとか？

○その他の大部分の県教委ではあの通達に示された「給食」という文字を小学校の完全給食と同じに解釈されてか(？)その内容について慎重に考えすぎ、施設、人件費などの心配からか、また一方には保健所、衛生試験所などの関係を考えてか？ 六月末日になっても細い指示がなく園長たちを心配させたようだ。しかし何といつても県教委の一番おそれていることは「粉ミルクの横流し」というような事実を起さぬようにという配慮かららしい。

しかし、そうしたなかで新聞、ラジオなど「幼稚園児にも給食を」などと報じられたことを知つてよろこぶ保護者の声、仕事のはんぎつさを案ずる現場苦勞性の先生の声など私のところにはいろいろと耳に入ってきた。

◎現場の先生がたの声

今まで給食を実施されていた先生がたは非常に喜んだ。安価で栄養価の高い粉乳がより一層完全給食の効果をあげ得たことはいまでもない。

しかし現在施設をもたない多くの幼稚園の先生がたは非常に「おっくうに」考えておられるようだ。食事の前後の仕末ですら人手不足でこまっておられる園などは全然見通しはつかぬといつておられる。

また中には熱心な園長先生によっていろいろと施設の工夫をさ

れ、園長先生が中心になって、ミルクのつくり方まで研究を始めたといううれしい報告もあちこちからいただいた。

今、国公立幼稚園長会では全国から三〇〇幼稚園を抽出してミルク給食の実施実態調査をはじめたので、来春までにはそのまともによつて粉乳の利用状況が大体わかると思うが、これは国公立の場合だけであるから私立幼稚園の状況も知りたいものだ。

幼児の体位向上をめざし、また総合された多面的教育効果をねらつてやがては完全給食にまで発展させたいとねがつている多くの幼稚園のために是非とも必要なのは「小麦粉」である。これは昨年予算措置で小学校があのように問題になつただけに、とても義務教育でない幼稚園にまで一人一円の補助金(小麦粉買い入れのための)をもらつて小学校児童と同じような完全給食をすることは無理だとは思ふけれど……粉乳の利用状況がよく、しかもいろいろと報告されてくる利用効果の資料があるならば、私共の運動がまた効を奏して「小麦粉の恩恵」にあずかるかもしれないと大いに期待している。

私共東京都公立幼稚園現場の先生がたも、ミルク給食について今までにいろいろと問題にし、各区教委と話し合つたり、小学校の粉乳を試食してみたり、いろいろと研究して、千代田区、中央区などの併設幼稚園は殆んど十一月から実施されていると思う。

私の園のように独立園舎で施設をする場所もなく、区費の予算もない現在ではどうにもならないけれど、今から準備して来年度の予算には最少限度の設備、人件費などを申請し何とか一日も早く実施したいものだと考えている。

しかし充分お膳立ができてから始めることとなると、何年かこのままで過ぎてしまうのではないだろうか？

また、食事のこともなれば保健衛生的管理が充分でなければ始められるものではない。この点園長は管理者として実につらい立場におかれていると思う。何かと工夫して施設し、保護者の力（出費）をかりて始めればどうか始められるとは思うけれど……公立幼稚園としての立場を守り、また多面的な教育効果を求めて勇気をもって実施にふみきるか？ 給食実施促進委員長という責任ある立場におかれて苦しみ多いこの頃ではある。

「学校の給食はまずい」と今でも小学生に給食をいやがらせていることの一つは、小学校の先生がたの中から先にでたことばだと思ふ。毎年四月小学校に入学したこどもの母親が「小学校はおもしろいけれど給食がいやだ」といって登校をいやがるとか、親も子も「給食ノイローゼ」になるということをきくにつけても、幼稚園でせめて粉ミルクをよるこんで飲む習慣がついていたら……と考えることがたびたびある。幼稚園では先生から「粉ミルクはまずい」と

いいたくない。のまづぎらいはしないように注意したい。

立派な教具、教材にしても入手してからその使い方を考えるのは間に合わない。効果的な利用の仕方を研究した上で利用するならばその効果は一〇〇%だと思ふ。ミルクの場合も幼児達に与える前にはつくり方やその味のぎん味は充分研究しておかねばならないと思ふ。

ミキサーや二重蓋の使い方一つでミルクの味がおいしくもまずくもなる粉ミルクである。しかも毎日つけて飲用すれば栄養価一〇〇%という粉乳を幼児達によるこんでのませられるのは幼稚園の先生がただと思ふ。

どんなにきらいな物が入っている味噌汁でも「幼稚園の味噌汁はおいしい」といって喜んでくれる幼児たちは、この粉ミルクも上手につくられてみんなが同じ器に手をつけて、しかも先生が一しよに「おいしいミルクね」と一言発することは毎日くりかえされれば無条件によるこんで飲用したくなるだろう。

しかし粉乳は研究のためだけに使用でき得ないなやみがまた問題として残っている。この点、小学校併設幼稚園の場合は飲用をさせながら小学校給食担当の先生がたと共同研究をしてゆく方法もあるけれど……まだまだ幼稚園界には多くの難問題が残されている。

（東京都公立幼稚園教育研究会長）